

# インプラント治療のCAD/CAM応用の優位性 — インプラントロジーの頂きの高さ、奥深さを実感 — 講師：小濱忠一先生

日時：平成27年2月22日（日）  
場所：東京コンファレンスセンター品川



岡田 淳（栃木県）

平成26年度第2回特別研修会が平成27年2月22日に開催され、「インプラント治療のCAD/CAM応用の優位性」と題し、小濱忠一先生に講演をいただきました。

小濱先生は日本を代表するデンティストの一人であり、新執行部となった当会が新たな門出を迎える



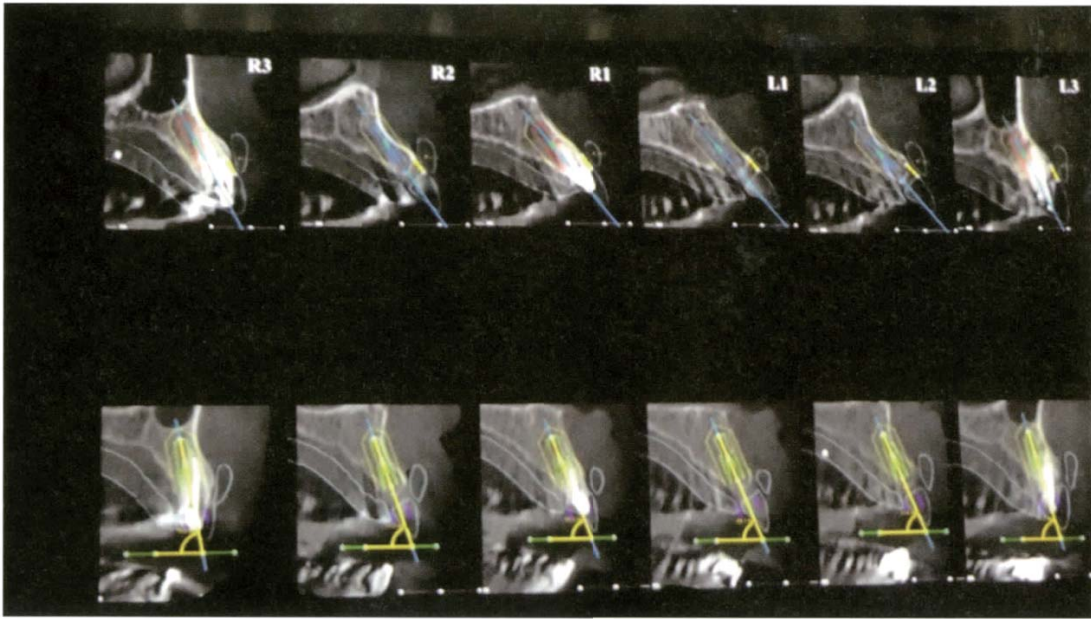
にあたっては、正に最良の演者です。

当日は、会員の先生方だけでなく、非会員の先生方も多く見られ、会場はいつも以上に熱気に溢れていました。

先生はまず「自らのインプラント臨床における過去から現在」として、「ストロマンSLActiveにおける治療期間短縮の有用性」や「TiUNite サーフェスの問題点」等を臨床例や文献的考察をもとに詳しく説明し、ノーベルバイオケアからストロマンインプラントへの変遷について述べられました。さらに前歯部審美修復における治療概念として、抜歯即時埋入の優位性、プラットフォームシフティングの有効性、フラップマネージメント等について、多くの臨床例を提示しながら詳しく講演されました。

午後からは、本題であるCAD/CAM応用の優位性として、ガイドサージェリーについて、そのメリッ





トとデメリット、プランニングの注意点等を自身の臨床例を中心に詳しく講演されました。ガイドサージェリーは審美・機能の両面で、より綿密な治療計画を立案することが可能であり、手術の正確さと、患者に与える肉体的負担の低減を図ることができる、まさにminimal invasive (低侵襲) なインプラント治療であるが、一方で適応症が適切に選択されない場合、あるいはシステムの原理、特徴、そして限界が十分に理解されずに施術された場合には思わぬトラブルを招きかねず、特に軟組織の情報は反映されないことから、術前のWAX-UPを用いたプランニング等が重要であることを熱弁されていました。

また、アバットメントや補綴設計においてCAD/CAMを応用する上で重要なこととして、自身の治療基準を明確にもち材料やシステムの特徴をよく理解し、それらの使い分けと技工士とのコミュニケーションが重要であることを述べられました。

さらに、未曾有の大震災を間近で経験し、メンテナンスやリカバリーの重要性を再認識し、少数歯残存ケースにおけるインプラントコーヌス義歯など、現在は患者可綴式の補綴臨床も数多く行っている事をお話されておりました。

毎回休憩時間を挟む際には、フロアから多くの質問が上がり、熱いディスカッションが繰り広げられ、熱量の高い講演会となりました。今回の講演で、小濱先生の臨床がどれも明確な治療基準と戦略に裏打



ちされたものであり、それこそが誰にも真似できない素晴らしい審美性を生み出し、長期永続性につながることを理解することができました。

一方で、私自身の知識や技術の未熟さ、インプラントロジーの頂きの高さ、奥深さをまざまざと実感した一日となりました。今回学んだことをエネルギーとし、明日へとつながる大変有意義な研修会であったことをここにご報告いたします。